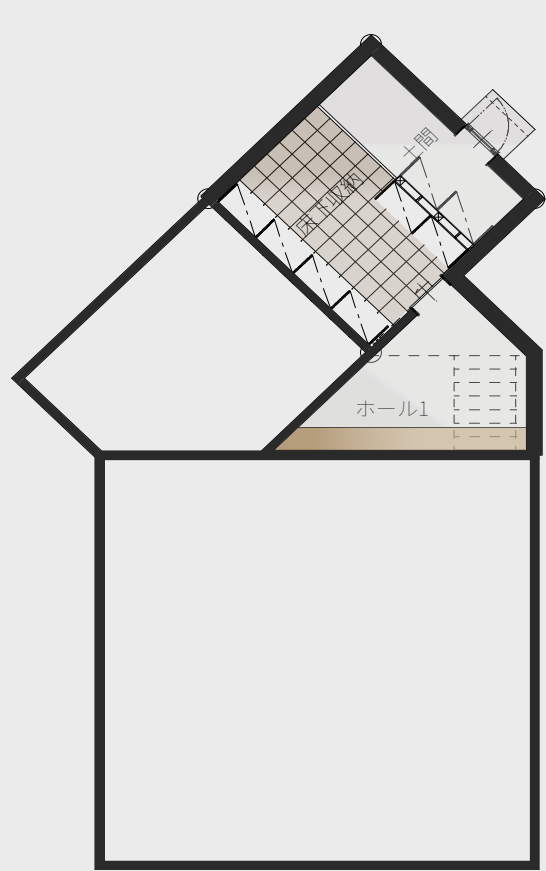


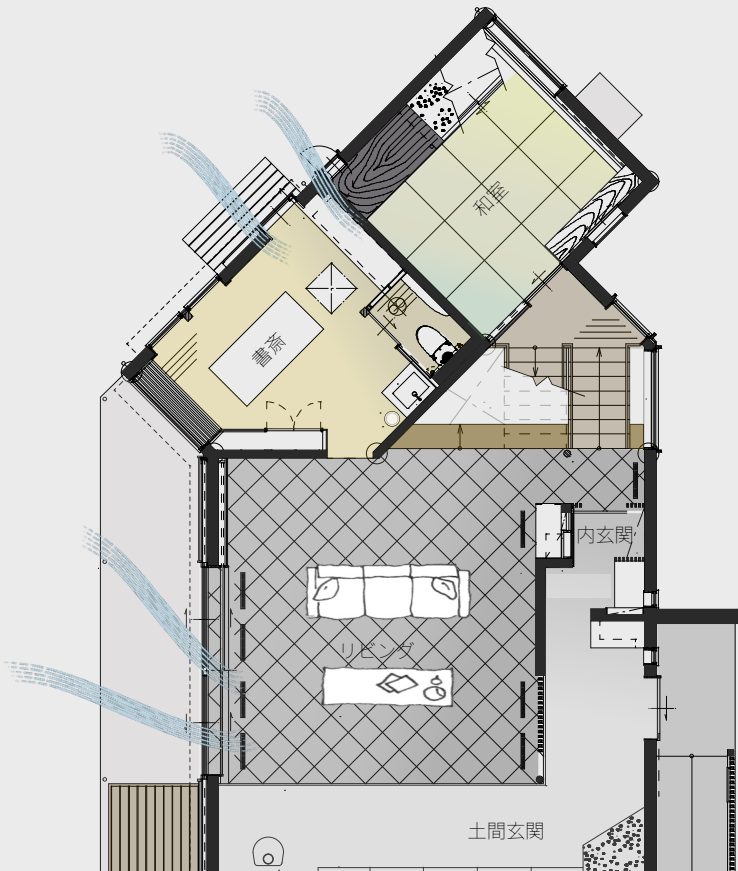


みのりが丘の家

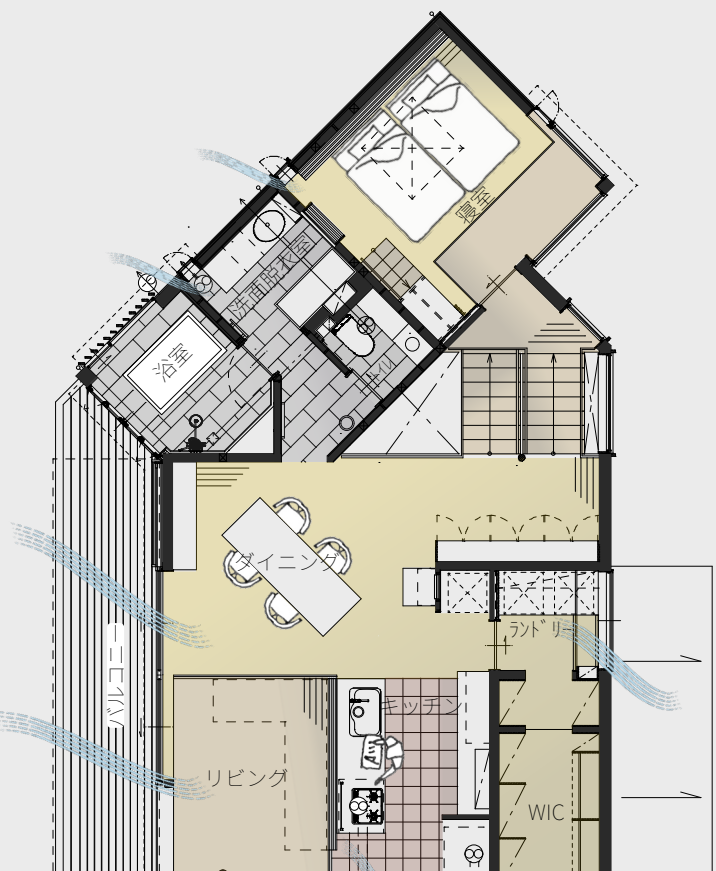
リビング・玄関ホール・外部が一体となった空間。二間の窓を開けることでさらに外とのつながりが深まる。



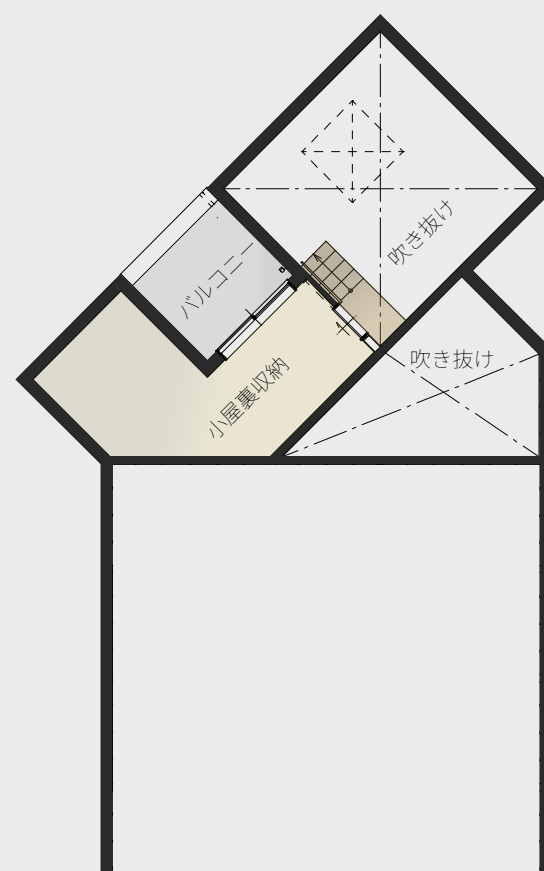
床下平面図



1階平面図



2階平面図



小屋裏平面図



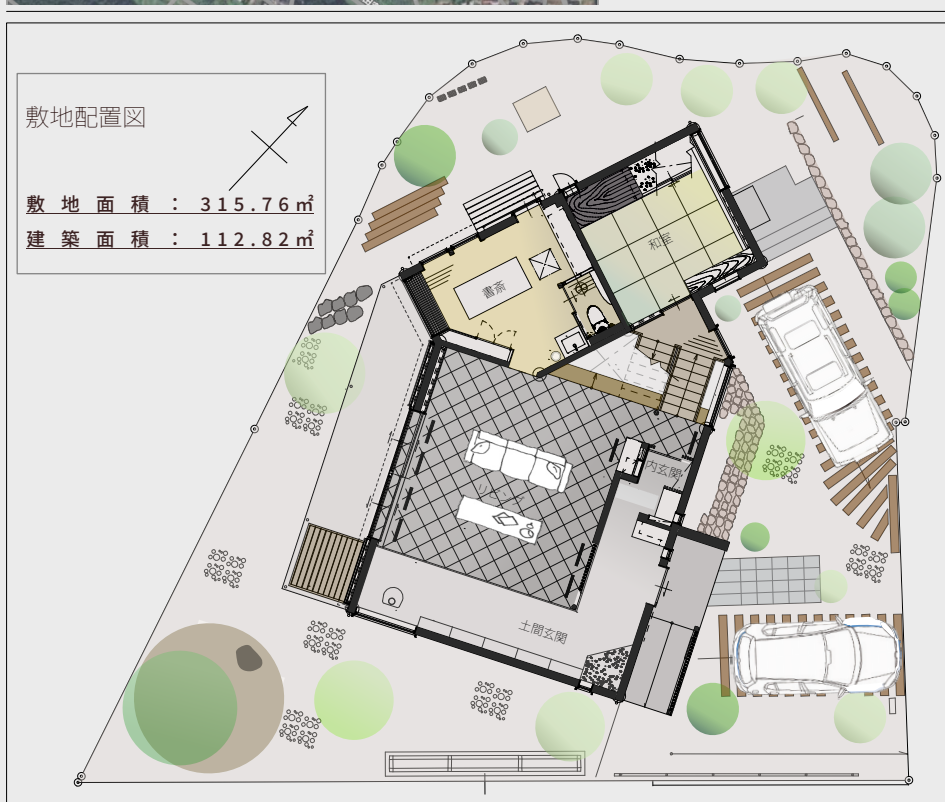
敷地周辺・計画



対象敷地は群馬県中州市秋みのりが丘に位置する。

この土地は2003年、北陸新幹線中榛名駅前に日本初の新幹線駅直結型の定住型リゾートシティとしてオープンされた住宅街の一角である。豊かな緑に囲まれた住宅街であり、新幹線通勤、別荘、定住型など多様な暮らしに対応している。

お施主さんも元々この土地をセカンドハウスとして利用していたが、定年を機に建て替えて定住することを決断した。



敷地の東側は道路に、西側は小道に接している。小道の向かい側は木々が生い茂っている。2つの構成から成る建物で、45°角度をつけることで、部屋ごとに外の景観が変わってくる。建物に入ると玄関土間空間と一体になった広々としたリビングにつながる。二間の開口を設けることで、外部との一体感を演出。くつろぐ場としても、客間としても利用可能。裏動線を使うことで2階のプライベート空間へのアクセスもしやすい。

自然素材へのこだわり

弊社は自然素材を使った家づくりを得意としている。木、土、紙、石のそれぞれの特色を生かした、より暮らしやすい住まいのカタチを探索している。



木を見ると思議と心が安らぐ。また、国産材にも様々な樹種があり、それぞれが異なる特徴を持っている。その力を住宅の設計に生かさない手はない。構造材や床をはじめ、壁や天井、造作の棚まであらゆる場に使っている。



紙は日本の持つ建築文化のひとつである。光を調節し、やわらかな空間を作り、襖や障子など、軽くて使いやすい建具にもなる。日本人の繊細さゆえの知恵なのだろう。襖や障子だけでなく天井にも国産紙を使っている。



土が持つ独特の優しさは、ほかの材料にはない。微妙な凹凸やバラツキを自由に表現できるのが左官材料である。また、建築材料の中でも最も調湿性に優れている特徴も持っている。壁の仕上げ材として使っている。



石という自然素材を、特に室内に使うという考え方は比較的新しいのではない。日本人が持つ繊細な感覚によれば、欧米にはない独自の使い方ができるのではないかと考える。浴槽、手洗いなどの水廻りや玄関ホールに使っている。

光・熱・風をデザインする

小さなエネルギーで快適に暮らすためには、太陽や風といった自然エネルギーをうまくデザインすることが求められる。



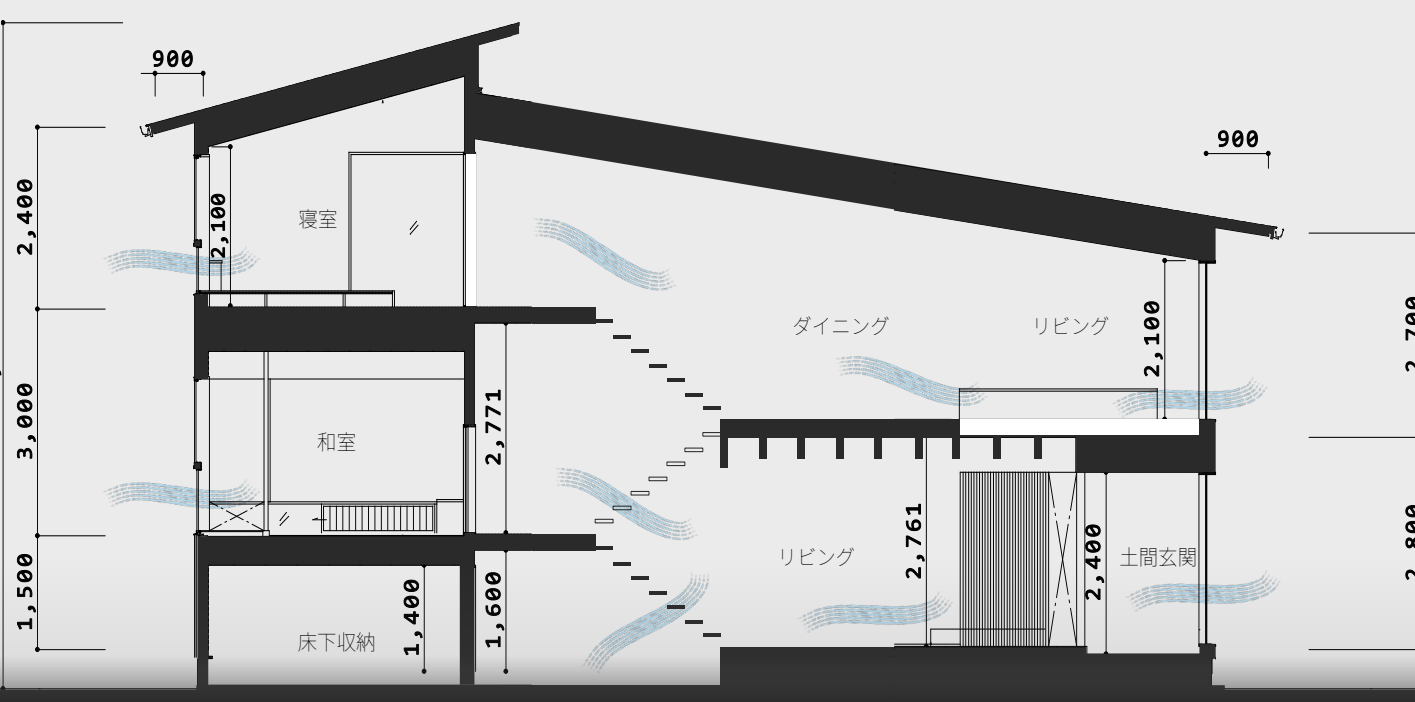
窓をつけることでより多くの自然光を取り入れることができる。また、太陽光発電6.12kwを搭載し、電源としても利用している。



底をつけることで夏場の鉛直に降る日差しをカットし、冬場の斜めに入る日差しだけを取り入れることができる。



廊下をなくし、建具を引き戸にすることで家の中を流れる風を遮るものがなくなる。さらに、建物の断熱性能を高めることで全館空調とし、家全体が暖かく、涼しい。



1階 リビング
構造材には地域材の杉を使用し、大きな梁が意匠となっている



2階から撮影した階段
広がりある室内空間の演出



和モダンなお手洗い



屋上からは山々を見渡せる

h i n o s u m i k a